

8.3 進路選択

進捗状況報告

○施策の目標の達成度を測る指標		公開/非公開	単位	2004	2005	2006	2007	備考
指標1	第一回キャリアガイダンスの有効性について	公開	%			82.3	78.9	(文系学生対象・第一回キャリアガイダンスのアンケートで5段階評価のうち評価が高い5または4と答えた回答者の割合)
○基礎的な状況を継続的に観測する指標			単位	2004	2005	2006	2007	備考
指標2	就職決定率	公開	%	97.0	97.7	98.8	98.4	就職決定者÷就職希望者
指標3	就職率	公開	%	75.1	80.0	87.0	87.6	(就職決定者+自営)÷(卒業生+進学)
指標4	就職先への満足度調査	公開	%	97.1	93.5	93.5	98.0	内定企業への満足度(就職決定時のアンケートより) 「非常に満足」「満足」「やや満足」「普通」「やや不満」「不満」「おおいに不満」の7段階評価のうち「やや満足」以上
指標5	人気上位100社への就職者の比率	公開	%	16.4	14.9	20.6	21.7	人気企業100社はリクルートワークス発表による 人気企業100社への就職者数÷就職決定者

注) 指標1は、2006年度から調査開始。
注) 指標4の2004年度、2005年度は、「満足」「まあまあ満足」「やや不満」「不満」の4段階評価のうち「まあまあ満足」以上。

指標1 低年次生向けプログラム強化が就活意識の高揚を生み、彼らからはより質の高い内容を求められるようになった結果が対前年度比で減少に転じた理由ではなかろうか。学生からは早期化を望む声もある。
 指標2 ほぼ、限界に近い数値であろう。
 指標3 すでに高水準に達していたが、さらに上昇した。好景気や求人意欲の旺盛さによるところが大きい、教員・学部事務室を巻き込んで把握率向上に努めた結果ともいえる。
 指標4 好景気と求人意欲の高まりが大きい、業界説明会など進路指導の成果もある。
 指標5 金融への就職比率が高いことにより、高い数値として現れているが、特定の業界に集中していることは景気の変動を受けやすく不安定ともいえる。
 その他、企業懇談会を関係強化のきっかけとしたが、今後はそこで企業側からいただいた指摘を具現化した学内プログラム修了者との顔合わせ等、次段階の企画を考える必要がある。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

2008年度の「自己分析・自己PRセミナー参加率」は61.0%であり、まだ目標に達していないが、着実に増加している。その理由は第1回ガイダンスでのアナウンスの強化、冊子の早期配布、告知ポスターへの内容の具体的記述等が奏功したと推察される。外的要因として景況感の悪化も追い風になっているかもしれない。
 ライフデザインプログラムは年々企画が増加しており、参加者数やアフターアンケートの結果についてはキャリアセンター委員会にて報告している。ここでは低学年生向けプログラムの一部について報告する。「キャンパスライフABC」は83名出席で、「役立った」が95.2%。「新2年生対象ガイダンス」は約600名参加で「役立った」が92.0%。上智大・立教大との「ネクスト・リーダー・プロジェクト」は15名参加で「役立った」が73.3%。東京女子大との「ウィメンズ・エグゼクティブ・リーダー養成塾」は21名が参加、「また参加したい」は100%であった。
 新入生対象ガイダンスについてはあらたに社会学部が5月に実施。また法学部は入学式オリエンテーション時の時間拡大が図られ、着実に学部の理解が深まっている。
 苦戦組学生への就職支援策については3年生支援に重点が移る秋以降も継続募集中の企業情報を共有する仕組みを設けるとともに常に飛び込みの相談に応ずることができる人的体制を敷いて対応している。
 キャリアカウンセラー資格取得へのサポート体制強化について総務部は、資格が個人に帰することを理由に「自己啓発研修」のひとつとしての支援以上の措置は認めていない。図書館司書と同等の支援策を講じてもらえるよう引き続き交渉を続けたい。
 男子学生支援策を12月18日に卒業生12名の協力を得て実施した。参加学生52名は10時近くまで熱心な議論を交わし、大きな刺激を受けていた。
 就職活動の早期化防止については総論として企業・大学ともに賛同しているが名案を見出せないまま継続審議となっている。
 就職データの多方面への活用を図るべく、各学部と個別に「データ読み合わせ会」を実施し、入試制度や入学直後のオリエンテーション等に反映されつつある。また情報開示については極力開示に努め、08年4月には大手大学では先陣を切る形で全就職先をHP等で公開した。
 エクステンションプログラムのうち就職支援に関するものについては担当部署の一本化が望ましいと考えるが、具体的な交渉はまだできていない。

学内第三者評価

目標設定も具体的であり、優れた自己点検として認められる。2003年度の自己点検・評価項目に設定した「自己分析・自己PRセミナーの参加率」について記述が求められる。また、ライフデザインプログラムの参加学生数、学生の満足度などについての記述が望まれる。加えて、2007年度の進捗状況報告に「課題」「交渉中」「検討」「努力を続ける」などとしたものについて、その後の進捗状況報告が望まれる。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
 各指標はほぼ増加する傾向にあり、着実に成果をあげているものと評価できる。